

## 健康大地

広大な健康大地の夏の盛りに、私は笑われるべく  
驚ほどに尊大な、黒いマントのメフィストに笑われるべく  
私は東へと行くが、太陽にも迎えられず  
魂の叫びも、なまくらな霧に吸い取られ  
無音の明るい闇の中で私は灰をかぶり  
ただ、声無きすすり泣きを己の胸になすりつける

さぞやたくましき健康大地と訪ねてはみたが  
結局は、病棟の鉄格子よりのぞく蒼白なる眺めか  
それとも本当に大地はやつれ、病んでいるのか  
尋ねてみればと隣席を見るが、その女も何故か<sup>ひと</sup>  
雑巾の如き顔をして悶えつつ眠り込んでいる  
細長き黒髪は首筋にはりついている

ああ、私は死んだ大地を見ているのだ  
緑青、赤カビ、青カビ、そして胞子の充満  
健康大地はじくじくと体液を沁み出し  
そのただれた皮膚の上をチーゼルは行く、東へ  
このなまくらな笑気が、車中の病人たちを  
気遣いじみた祭りに誘わないだけまだまだ

(1982.3.4)